

知事との県民対話集会（小布施町）概要

- ・開催日時 令和5年3月4日（土） 午後5時30分から午後7時まで
- ・会場 小布施町北斎ホール
- ・参加者 県民48名、桜井小布施町長、阿部知事、中坪長野地域振興局長
- ・テーマ 住民主体のまちづくりについて
- ・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・小布施らしい協働の仕組みとして平成20年に発足した小布施まちづくり委員会の活動をしている。町とはパートナーシップ協定を締結している。
- ・これまでに、可燃ごみのたい肥化、ハイウェイミュージアムの活用、高齢者移動のタクシー利用券補助、コミュニティスクール導入など七つの提言をしている。町の施策として現在継続しているものもある。
- ・町民が主体的に活動できる大変よい仕組みであると思うが、発足から16年が経過する中で、委員会への参加者の減少や活動のマンネリ化といった課題が生じている。
- ・委員会での議題がマニアックになり、新しい人が入るのにハードルが上がっている。また、活動が町民に認知されていないのではないかと感じる。
- ・参加する人が固定化されてしまっていて同じような意見でまとまってしまう。新しい風が必要と考えている。

【知事】

- ・小布施町は民力が強い自治体と多くの人が思っているし、皆さんも思っていると思う。地域の皆さんの活動をどう発展させればいいのか一緒に考えたい。
- ・小布施町の取組は非常によいものであり、この取組のどこが課題でどこを活かしていくかということに取り組みれば、もっとよい自治モデルをつくれるのではないかなと思う。
- ・参加者の減少等については、みんなが関心を持つようなテーマを選び、住民に呼びかけてみてはどうか。

【参加者】

- ・地区の住民主体の支え合いとして、居場所づくりと助け合いの活動に取り組んでいる。
- ・助け合い活動については、数百円程度の有償ボランティアで実施しており、年々増加傾向。有償で本当にいいのか悩んだが、先進地の取組を学び、無料では気兼ねしてしまうということを知り、このような形で実施している。
- ・居場所づくりは、コロナの影響により人が集まる計画の多くは頓挫していたが、最近になってコロナ対応を十分に言い再開しつつある。
- ・今後の課題は、移動や外出支援をどうするかということ。また、ボランティア側の高齢化、担い手不足である。
- ・活動が他の地域にも広がるよう努力したい。

【知事】

- ・これから県として力を入れていかないといけないことは「移動」である。長野県は公共交通があまり発達していない。高齢者や若い人たち、特に高校生と話をしていて言われるのは、交通が不便だということ。
- ・バス、鉄道、タクシー会社に頑張ってもらい行政も応援することも大事であるが、すべての人のニーズは満たせないの、移動については地域の支え合いということがかなり必要だと思う。地域の皆さんに支え合ってもらえるような仕組みをつくるのが行政の仕事。
- ・こんな仕組みがよいということを思いついたら、私に教えてほしい。我々も一緒に考え、コラボレーションさせてもらえればと思う。
- ・お話を聞いていて思ったのは、理屈で分かることと行動することは雲泥の差があるということ。こんなことをやったらいいと思う人は多いが、その中で行動に移す人は数パーセントしかいない。
- ・小布施町は問題意識を持っている人が多く、もう少し背中を押してあげる仕組みがあると変わると感じる。

【参加者】

- ・おぶせエバーグリーンマーケットを開催している。飲食、クラフトなど様々な出店があり、消費者と生産者のつながる場づくりをし、町の活性化を目指している。
- ・ボランティアスタッフには男性もいるが、本部スタッフは全員女性である。子育てをしながらの活動は大変だが、やりがいを感じている。
- ・女性主体の活動は小布施町でも広がっていると思うが、先日自治会の役員会に出席したら、女性が自分一人で驚いた。女性や子育て世代が活躍できる環境になればよいと思う。

【知事】

- ・県民対話集会で県内を回っている中で、会場にほとんど女性がいけないという印象がある。県内はまだ自治会やPTAなどは男性が会長をやるものと思っている地域も多いだろうと思われ、こうしたことは変えないといけないと思う。
- ・女性の活躍という側面から見たら、日本は世界の国々からすると遅れているので、県では次期総合計画において「女性・若者から選ばれる県づくり」を進めようと考えている。
- ・女性に選ばれる、女性にとっても暮らしやすい環境をつくらないと長野県はどんどん元気がなくなってしまう。我々も女性の応援をしっかりやっていこうと思う。

【参加者】

- ・食と農に関心のある農業者など様々な立場の人が集まり、勉強会やワークショップなどを開催している。
- ・環境に配慮した自給菜園を広めることや伝統野菜の種を守ることをビジョンとしている。
- ・県には種子条例の制定や有機農業の推進等をしていただき感謝したい。
- ・長野県には豊富な品種があるので、引き続き種を守ってもらいたい。また、農業者が減っているので、みんなで考える場を持っていただきたい。

【知事】

- ・食糧問題は世界の重要な課題になっている。
- ・地球環境の問題や地域経済の持続可能性を考えたときに、生きるために必要なものはできるだけ身近なところで生産することが重要だと思う。
- ・農業と食の話は、みんなで考える場を行政も設けなければならない。
- ・生きるために不可欠なものをどうするかは、縦割りの視点ではなくどう連携させるのか、県政の中でも考えていきたい。

【参加者】

- ・子どもたちと未来を考える会などで活動している。活動を通しての今後の課題は、1つ目として、居場所の確保。子どもたちの活動を受け入れてくれる場所の確保が難しいと感じる。ハード面では費用と時間の問題により活動の幅に制限が生じている。ソフト面では子供の声や音に対する理解不足がある。
- ・2つ目は、支援者の横の繋がりについて。町には子どもたちを支援する団体がいくつかあるが、横のつながりが少なく感じる。子どもたちの育ちに対してより安定的に支援するためには、点ではなく面の関わりが必要だと思う。
- ・3つ目は、様々な理由で学校に通えていない子どもが増えてきており、そうした人たちへの支援である。
- ・経済的な理由や様々な問題が複雑に絡み合い、どこにも行けずに困っている方が多い。そうした子どもたちや保護者の1人でも多く支援できるような体制づくりを県と協力し、取り組んでいければよいと思う。

【知事】

- ・県の次期総合計画では、教育、子育てが最も重要なテーマになっている。
- ・長野県は、子どもたちの学びの場の選択肢が少ないと指摘されている。来年度、フリースクールの認証制度を検討して、再来年度からその認証を踏まえフリースクールに対して県として応援する仕組みをつくりたいと考えている。
- ・学びは本来、最も自治的な仕組みでなければならない。子どもたちにどういう教育をすればよいのかは、現場の先生や保護者の皆さんが一番分かっているので、地域や学校現場で自主的、主体的に考えていかないと本当にいい教育ができないと思う。そういうことも含め、皆さんと一緒に考えて、教育の改革を長野県から起こしていきたい。

【参加者】

・台風19号災害後、小布施まちづくり委員会の安全を考える部会で、防災に関する住民向け講座や講演会などを開催している。

・自治会としてどのように自主防災に取り組んだらよいか苦労している。避難訓練も行うが、形式的になってしまっているため、防災訓練や避難訓練の仕方について県での誘導策はないかと思う。

【知事】

・自治会での避難訓練や防災意識の高揚は重要だと思う。

・災害が発生しても救助活動が必要になる前に避難してもらうことが大事であり、それを考えると地域の役割が重要だと思う。

・県や市町村で防災訓練を行っているので、自治会や住民の方に対して「こういうことをやってもらえませんか」と呼びかけることはできると思う。

【参加者】

・県の県民参加型予算の取組に感銘を受けたが、その期待はどんなところにあるのか。小布施町でも取り組んでほしい。

【知事】

・4期目のモットー、活動方針として掲げているのが「共創」。価値観が多様化する中で、行政が取り組む分野が広がっている。行政だけではできないため、共創はこれからの世の中で重要だと思う。

・県民参加型予算は、「提案・選定型」と「提案・共創型」の2つのパターンで試行している。

・地方自治体は何をしなければならないかといえば、まず、一番大事なのが住民自治であるため、県民の皆さんの考え方、思いをしっかりと県政の政策に具体化すること。予算編成プロセスの中にも県民の皆さんの考え方を入れて、提案・共創型では、事業を行うところも一緒にやっていこうという形で取り組んでいる。

・もう一つ大事なのが団体自治。日本は、中央集権システムがまだ強く残っていると思う。例えば、保育所のことを考えたとき、保育所の面積はこうあるべきと国が決めている。東京の保育所も小布施町の保育所も同じ基準で本当にいいのか。国の制度で見直してもらいたいものはたくさんある。団体自治ということも皆さんに問題提起させていただくが、一緒に考えてもらえるとよいと思う。